

2 日々の授業や研究授業を通して、自らの指導力を磨いていくために

Q 10

一人一人の指導力を高めるための研究にするには？

ポイント

一人一人の教職員が指導力を高めるためには、自己課題を明確にし、授業改善等をすぐ実践できることが大切です。日々の時間の中で、周りの同僚と学び合える時間をもてるようになります。

- (1) 日々の授業を振り返り、課題を明確にして成果のある研究会に。
- (2) 一人でやらない、みんなで話し合える研究体制の工夫。
- (3) 無理なく実施できる授業研究の工夫。

(1) 日々の授業を振り返り、課題を明確にして成果のある研究会に

- ① 課題を明確にして、やりがいのある研究にしましょう。

必要感のあるテーマを設定しましょう。自分の授業を向上させるにはどうしたらよいかなど振り返ることが大切です。

- ② やりがいを感じられるように、振り返りをしましょう。

少人数でもよいので、周りの同僚に授業を見ていただいて、評価していただきましょう。

(2) 一人でやらない、みんなで話し合える研究体制の工夫

授業について一人で悩んでいては研究が進みません。そのためには気軽に相談できる研究体制、グループづくりが大切です。どのようなグループや仲間ができるか工夫しましょう。

- ① 研究グループで授業者任せにしない授業づくりの工夫

授業者任せにせず、みんなで教材研究をし合ったり、模擬授業を見合ったりするなど、全員で取り組める研究体制を作りましょう。

- ② 学年、連学年、教科会など小グループでの研究の工夫

すぐ集まり話し合える仲間で研究をしましょう。学年会、教科会等。

(3) 無理なく実施できる授業研究の工夫

- ① 一人一公開授業の工夫をしましょう。

全員が参観するのは大変ですが、導入部分だけ、終末部分だけを見るといった短時間でも参観できる時間を工夫しましょう。

- ② 保護者参観日の授業を利用した授業研究をしましょう。

誰もが行う授業公開の場です。学年会や教科会で話し合って、保護者が参観する授業を工夫しましょう。

保護者参観日の授業を利用した授業研究

保護者参観日の授業で授業力レベルアップ



若手の先生

参観日の授業どうしようかな？よい授業のアイディアがないかしら。先輩教えて。



ベテランの先生

保護者の方にも、納得してもらえる授業をしたい。教材研究を更に深めよう。

学年会、教科会等のメンバーで保護者参観日の授業に向けた授業研究の実施

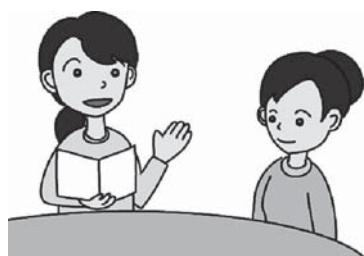
一番身近な学年会、連学年会、教科会のメンバーで、力を合わせて授業研究会をしましょう。

保護者参観日の授業を利用した授業研究のよさ

- ① 教職員の「保護者も納得する授業をしたい」という願いが切実である。
- ② 参観授業に向けて、学年会、教科会等のメンバーで実質的な教材研究ができる。
- ③ 教材研究が深まった授業で、児童生徒の学習意欲も高まる。
- ④ 保護者の方からも評価が得られ、教職員がやりがいを感じられる。

授業参観を終えて・・・

子どもたちの反応がよく、意見がたくさん出てきました。教材研究を深めたおかげね。(A先生)



一人でやるより、みんなでやる教材研究はとても楽しくて勉強になりました。先輩の知恵をたくさんお借りしました。(B先生)

先生の授業がとても充実していて安心しました。クラスの子どもたちが輝いていました。(保護者)



今日はなんだかたくさん意見が言えたな。先生の授業がとっても分かりやすかった。(児童生徒)

Q 11

日々の授業構想を効率的に行っていくには？

ポイント

日々の授業に対し、詳細な指導案を作成することは難しいことです。しかし、「子どもと共に創る授業」を構想する上で、ねらいや学習活動、見とどける姿を明確にすることは欠かせません。

そこで、学校全体や学年会、教科会等で日々の授業構想ができるフォーマットを共有して、短時間で構想する仕組を作って、実践していくことも校内研修として位置付きます。

- (1) 指導案を短時間で書ける内容にする。
- (2) 定期的に学年会や教科会で、互いの指導のよさや改善点などを振り返る。

(1) 指導案を短時間で書ける内容にする

授業のねらい、1時間の授業の流れの概要、見とどける姿など、3観点のポイントとなる内容を簡単に書くためのフォーマットを共有しましょう。

- ① 本時のねらいを明確にします。そして、ねらいを達成できる1時間の授業の流れを明確にした授業構想を心がけます。
- ② 授業終末で見とどける子どもの姿をイメージして、具体的に書きます。その姿になるために必要な学習活動、学習課題を書きます。
- ③ 15分程度で書ける内容とします。積み重ねていくことで、子どもの姿を顧みる習慣が付きます。フォーマットとしては、座席表タイプのものも考えられます。

(2) 定期的に学年会や教科会で振り返る

単元の区切り時期など、定期的に互いのそれまでの指導案を見せ合い、互いのよい点や更に工夫したい点などについて、次のような観点で意見交換をします。

- ① ねらいが学習指導要領に沿ったもので、明確になっているか。
- ② 導入場面が、子どもが主体的に本時のねらいに迫っていくこうとする内容となっているか。
- ③ 学習活動が、子どもを真ん中に置いた、子ども主体の活動になっているか。
- ④ ねらいに対する見とどけが、子どもの具体的な姿で表現されているか。

ポイントを絞った授業構想例

学校全体、学年会、教科会でフォーマットの検討

8月 27日 (月) 教科名 5年、算数 単元名 合同な四角形	
<p>○ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同な四角形を作図するには、合同な三角形の作図方法をもとにすればよいことを理解する。 ・合同な三角形の作図方法をもとにして、合同な四角形の作図方法を説明することができる。 	
<p>主な学習活動・流れ</p> 	<p>①合同な四角形を作図するには、どのようにすればよいだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同な三角形の作図方法が使えそうだ。 ・四角形を対角線でくだけると三角形ができるよ。 <p>②合同な三角形の作図方法をもとにして、合同な四角形を作図する方法の説明を考える。</p> <p>③合同な三角形の作図方法の違いによって、いろいろな作図方法があることを確認する。</p> <p>④いろいろな四角形で、合同な四角形を作図する。</p>
<p>○「わかったこと」として出してほしい内容や言葉</p> <p>合同な四角形を描くためには、合同な三角形の作図方法をもとにすればよい。</p>	

・15分程度で書ける内容を検討し、無理なく継続的に実践できるものにします。

・試行として、ある単元のみをまず実践してみるのもいいでしょう。

定期的な振り返りにおける意見交換

本時のねらいは、「～が説明することができる」になっているけど、学習指導要領でもそれを求めているし、単元の目標から考えても、的確なねらいだと思うよ。

見とどける姿が、作図ができるかどうかになっているけれど、本時のねらいは説明することなので、説明できるかどうかを評価する場があった方がいいな。

〇〇日() 単元名 ねらい	
<p>主な学習活動・流れ</p> 	
<p>○「わかったこと」として出してほしい言葉</p>	

〇〇先生の授業構想を単元分見せてもらって、子どもの思考を大切にすることが大事なんだなと学ばせていただきました。

導入は、子どもが既習事項を想起して追究の見通しがもてる内容になっている点が、よいと思う。教材研究が生きているね。

追究の場面で、一人一人の考え方を言葉で伝える場があってもいいのではないか。ここで、ペア学習やグループ学習を位置付けてもよかったですかもね。

同僚との情報交換を通して、授業構想のポイントをつかむ

Q 12

日常の授業実践を生かして指導力を高めるには？

ポイント

同僚の実践から学ぶ機会をもつことで、指導力を高めることもできます。学年会や教科会などで、互いの実践について情報交換することで、多くのことを学べるはずです。

- (1) 限られた時間の中で、テーマを絞って情報交換する。
- (2) 互いの実践のよさを、自分の実践に生かしていく。

(1) 限られた時間の中で、テーマを絞って情報交換する

学年会や教科会などで、例えば20分程度の時間を確保し、テーマを絞ってメンバーそれぞれの日々の実践を報告し合います。例えば、次のようなテーマはいかがでしょうか。

- ① 板書の報告会：日々の授業における板書をデジタルカメラで撮影し、それらを全員で見合い、よさや課題について検討する。
- ② ノート指導についての報告会：算数を中心に「一時間の学びがひと目で分かるノートづくり」という観点で、メンバーそれぞれが担当する子どものノート（コピー）を見合い、そのよさを互いに学び合う。
- ③ ビデオ視聴によるミニ授業研究会：ある日の授業をビデオ撮影し、例えば、導入部分のみを全員で視聴する。そして、そのよさや自分ならこうするなどについての情報交換をしながら、よりよい指導について考える。

(2) 互いの実践のよさを、自分の実践に生かしていく

情報交換で学んだことを、自分の日々の実践に生かしていくことが大切です。例えば、上の(1)

- ①～③の例では、次のようなことを取り入れて授業構想をしていくことができるでしょう。

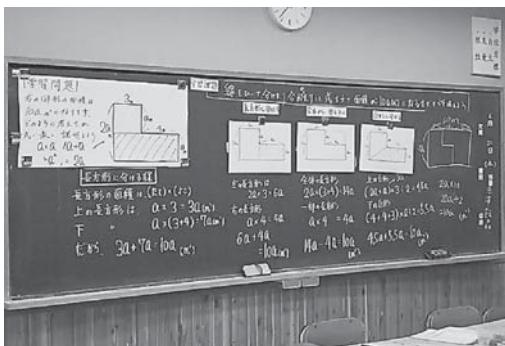
- ① 「学習問題」「学習課題」「見通し」「今日分かったこと」「まとめ」などの、板書カードを用いた構造的な板書の仕方を取り入れる。
- ② 子どもの考え方の道筋がひと目で分かるノートを意識できるようにする。
- ③ 子どもが主体的に追究するための、導入時の問題との出合せ方、子どもから追究の見通しを引き出す発問の仕方などを取り入れる。

日々の授業実践を生かす

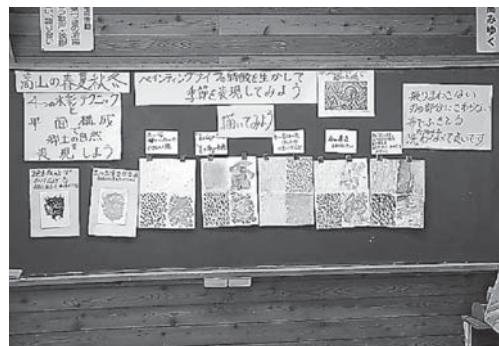
限られた時間の中で、テーマを絞って情報交換

<学年会で時間を20分間確保し、日々の授業における板書について情報交換する例>

- (1) メンバーの一人（提案者）が、ある日の授業の板書をデジタルカメラで撮影したものを提示し、その授業のねらいや工夫した点などについて説明する。（3分）
- (2) 板書の様子を見て、他のメンバーがよさや改善点について考えをもつ。（2分）
- (3) メンバー全員で互いの考えを発表し合い、よさや、よりよい板書についていくためにはどうすればよいかについて情報交換する。（10分）
- (4) メンバーの一人一人が、学んだことをそれぞれ端的に発表する。（5分）



【数学 文字式の授業】



【美術 水彩画の授業】

互いの実践のよさを、自分の実践に生かしていく

- ・板書の強調したい部分が、黄色で書いてあって見やすい。
自分も明日からやってみたい。
- ・自分は学習の見通しを板書することがあまりなかった。これからは意識してみよう。
- ・A先生の板書は、1時間の流れがよく分かる。これなら子どもたちもノートに取りやすいし、ノートの内容も1時間でどんなことを考え、どんなことを学んだかが分かるようになるので、取り入れたい。



同僚の日々の授業実践から学んだことを自分の実践に生かすことで、授業力を高める

Q 13

効率的に授業を振り返るには？

ポイント

教科の指導力を伸ばすには、日々の授業を振り返って次に生かすことが大事です。できれば、他の先生の意見も聞けるとよいのですが、互いの授業参観が時間的に厳しく、意見交換するにしても、具体性や共通の視点がないと、話し合いが焦点化しないこともあります。それを解消するための方法として、以下のようなことが考えられます。

- (1) 同じ授業で使う素材をみんなで研究し、その体験を共有した上で各自が授業構想をする。
- (2) 同じ内容の授業で、複数の教職員が行ったものをビデオで見合う。

(1) 同じ授業で使う素材をみんなで研究し、その体験を共有した上で各自が授業構想をする

年に数回でよいので、同じ授業で使う素材を、みんなで徹底的に研究し教材化することで、素材のもつ価値や子どもがつまずきそうなことなどがよく分かり、共通の視点が生まれます。

- ① 自分が気になっている子どものことを思い浮かべながら、素材研究をします。
- ② 思い浮かべた子どもが、どの場面でどんな反応をするかを予想しながら、指導案を作成します。
- ③ 指導案は、主眼のみでも可能です。板書計画もあれば、更によいです。
- ④ この授業は、子どもに何を学ばせるために行うのか、明確にしておきます。

振り返りの会では、授業を行った教師が、この授業で子どもに何を学ばせたかったのか、また、この授業を行っていたときに、どんなことを考えたり思ったりしたのかも話します。

(2) 同じ内容の授業で、複数の教職員が行ったものをビデオで見合う

- ① 同一学年同一教材に基づく2つの授業を、ビデオで記録します。
- ② 2つのビデオを見て、気付く特徴を発言していきます。
- ③ 授業者は、参観者から得られたコメントにより、自分が今後の実践に生かしたいことを発表します。
 - ・互いに共通する点、また、その展開が、気になっていた子どもにとってどうであったか、ビデオを見ながら検討します。全部を見るのではなく、場面を絞って見ます。
 - ・上記を、月に1回程度でよいので行い、継続して行います。
 - ・気になっていた子どもの変容とともに、自分の見方や考え方の変容もはっきりしてきます。

ビデオの記録を基にした授業の振り返り

中学校理科 「湿度」の授業



A先生(20代)

今まで、湿度の授業は説明で終えていた。何とかしたい。集中が続かないCさんでも、意欲的に取り組める授業にしたい。湿度のグラフを工夫してみよう。

実験に意欲的に取り組めるD君は、塩化アンモニウムの再結晶の実験を体験させて、水蒸気から水滴が生じる学習と関連付ければ、理解がしやすいかな。



B先生(40代)

- 同一授業での教材研究を教科会メンバー4人全員で行い、その後各自で授業を実施。

A先生とB先生は、それぞれ自分の授業をビデオで撮影。

放課後の時間（30分）教科会4人で



<A先生のビデオ（追究場面のみ） 視聴5分 意見交換10分>

A先生：湿度のグラフを可動式のものにしてみたが、Cさんには理解できなかったかも。

B先生：自分の学級でも、グラフの使い方でとまどっている生徒が何人かいたよ。

E先生：でもCさんは、湿度の増減と温度の変化には、着目している姿もあったね。

F先生：Cさんは、グラフの読み取りとかは苦手なの？

A先生：数学は得意みたいだけど・・・。

<次にB先生のビデオ（同じ場面） 視聴5分 A先生と比較しながら意見交換10分>

A先生：D君は、積極的に取り組んでいた。また、B先生の発問はすっきりしている。

F先生：自分の学級では、実験は意欲的になったが、湿度との関連付けが今一つだった。

B先生：D君の様子から、湿度と関連付けるためには、もう一つ手立てが必要だなあ。

E先生：実際の実験と、A先生のグラフを関連付ければうまくいくんじゃないかな。



【実施した先生方の声】

- ビデオで見ると、自分の思い込みで生徒を見ていたことがよく分かった。また、繰り返し見られるのがよい。
- 同じ指導案で実施すると、先輩の先生の行った授業を、自分の空いた時間で見られるので参考になる。

Q 14

研究主任として全校の研究を進めていくには？

II
—
2

ポイント

研究主任としての仕事は多岐にわたります。「研究推進計画の立案・実施・まとめ」「研究推進にかかる連絡・調整」など、や教頭、教務主任、教科主任等と協議・分担しながら進めていかなくてはならないことばかりです。

このように多忙な毎日ですが、研究の先には子どもの育ちとともに教職員の育ちが必ずあります。研究を通して教職員がつながりを深め、日常的に子どもの育ちについて語り合えるような同僚性を築いていく、そんな教職員集団の姿を思い描きながら、日々の研究推進に取り組みましょう。



- (1) 「研究だより」を作成して、日々の授業づくりに必要な情報を提供していく。
- (2) 「模擬授業」を通して、授業づくりの視点を共有する機会を設けるようにする。
- (3) 「授業研究会」の形態を工夫して、参加しやすい研究会にしていく。

(1) 必要な情報をタイムリーに提供していく「研究だより」

教職員が思わず何度も読みたくなる、そんな通信にしたいものです。

そのために同僚の授業を参観させていただき、その方々から学ぶべきポイントを掲載してみてはいかがでしょうか。また、「信州 “Basic”～授業づくりのポイント～」から必要な情報をタイムリーに提供するのも効果的です。



(2) 授業づくりのポイントを学び合う「模擬授業」

研究授業などの前に「模擬授業」を行うことがあります。すべての教職員の参加というわけにはいかなくても、普段なかなか語り合えない授業づくりのポイントを共有し合うチャンスです。

(3) 柔らかい雰囲気で進める「授業研究会」の計画

若い教職員がなかなか意見を出しにくい。そんな雰囲気を感じたら、ワークショップ形式を取り入れてみましょう。きっと笑顔で語り合う姿に出会えるはずです。



【参加した先生方の声】

初任研で道徳の授業をやりましたが、うまくいきませんでした。でも、模擬授業に参加してみて、生徒の意見をどうやってつなげればよいのかが、少し分かったような気がします。

I 中学校の模擬授業の様子です。部活動のない月曜日の放課後に計画しました。自由参加の形式を取りましたが、多くの教職員が出席しました。



ワークショップを取り入れた授業研究会



【進行計画例】

- | | |
|-------------|-------|
| 1 進行の説明 | (2分) |
| 2 授業者から | (3分) |
| 3 研究協議 | |
| (1) ワークショップ | (15分) |
| (2) 全体協議 | |
| ①ワークショップの発表 | (10分) |
| ②全体協議 | (20分) |
| 4 講評 | (10分) |

同じく I 中学校の授業研究会の様子です。本年度は若手の教職員が多かったため、授業研究会に参加しやすいようにワークショップ形式を取り入れました。グループは教科会を母体として構成し、今後の授業づくりにも生かせるように工夫しています。

机の真ん中に模造紙を広げ、教職員一人一人の意見が書かれた付箋が貼られます。小集団で語り合った後には全体協議の場も設けました。

授業における生徒の事実から内面で起こっていることを互いに解釈し合う、とても有意義な授業研究会となりました。

Q 15

子どもの解答結果を活用して授業改善をするには？

ポイント

学力の状況を判断する「基準」を理解していると、その後の授業改善などの取組を実質的に進めやすくなります。各種調査の採点基準などの理解を校内の多くの教職員が共有し、校内の授業改善の動きをつくりましょう。

- (1) 「みんなが」調査の目的と採点基準を把握する。
- (2) 授業改善等の可能性を「みんなで」語り合い、改善のP D C Aサイクルを回す。

(1) 「みんなが」調査の目的と採点基準を把握する

担当教科や学年等だけでなく、何人かの教職員で情報交換して採点基準の把握をしましょう。

検討の過程では、互いの指導法に学び合い、改善方法等を共有することも期待できます。

- ① すべての教職員が、調査問題を自分で解いてみましょう。その際、目の前の子ども一人一人の顔や日常の授業場面などを思い浮かべ、どんな解答が考えられるかをできるだけ多様に予想してみましょう。
- ② 予想した解答について、調査の採点基準を基にして採点してみましょう。どんな解答が○で、どんな解答が○や△、×なのかを確かめながら、正答の条件を把握したり調査の目的を確認したりしましょう。

(2) 授業改善等の可能性を「みんなで」語り合い、改善のP D C Aサイクルを回す

子ども一人一人の得点や、各問の正答率、集団の平均点などに目が向きがちですが、「無解答」が多い集団と、「明らかな誤答」が多い集団と、「正答の条件を十分に満たしていないことが原因の誤答」が多い集団とでは、それまでに行われてきた指導の様子が異なっていたり、授業改善の方向や方法が異なったりすることが考えられます。

- ① 解答類型ごとの解答状況や、得点別の度数分布表などを用いて、みんなで集団の傾向を把握しましょう。
- ② 調査についての集団の傾向と、日常の実践とのかかわりをみんなで検討し、集団の「強み」や「弱み」(日常の実践の「強み」や「弱み」)を把握しましょう。
- ③ 授業改善等に向けて「できうこと」「可能性や夢」を、できるだけたくさん出し合ってみましょう。その上で指導改善の見通しを立て、フットワークよく動きを作りましょう。

各種調査の採点基準を「みんなで」把握する

この問題に子どもはどう答えるかな？

○さんだったらこんな風に答えるかも…。

よく似た解答なのにどうして×なのかな？



まずは教師が



解答類型

(正答の条件)

< $3(n+1)$ と計算している場合>
次の(a), (b)を記述している。

- (a) $n+1$ は自然数だから、
 $3(n+1)$ は3の倍数である。
- (b) $3(n+1)$ は3の倍数である。

< $3n+3$ と計算している場合>

次の(c), (d)を記述している。

- (c) $3n$, 3が3の倍数で、3の倍数の和は3の倍数だから、
 $3n+3$ は3の倍数である。
- (d) $3n+3$ は3の倍数である。

$$n+(n+1)+(n+2)$$

$$=3n+3$$

$n+1$ は自然数だから、
 $3(n+1)$ は3の倍数である。
だから、連続する3つの自然数の
和は、3の倍数である。

$$n+(n+1)+(n+2)$$

$$=3n+3$$

$3(n+1)$ は3の倍数である。

$$n+(n+1)+(n+2)$$

$$=3n+3$$

$3n+3$ は3の倍数である。

$$n+(n+1)+(n+2)$$

$$=3n+3$$

$3n+3$ あるからで

$$n+(n+1)$$

$$=3n+3$$

$3n+3$ あるからで



$3(n+1)$ と式変形し「その式が3×整数の形になっている」ことを根拠に、「3の倍数だ」と説明しないと誤答になってしまうのか。なかなか厳しいなあ…。

授業ではそこまで吟味しないことが多いね。意識して共同追究しなくちゃ。

P D C A サイクルを回す

$$\cancel{n+(n+1)+(n+2)} = 15\%$$

$$\cancel{n+(n+1)+3} = 8\%$$

$$\cancel{n+(n+1)+(n+2)} = 5\%$$

$$\cancel{n+(n+1)+3} = 5\%$$

やっぱりこの誤答が多いな。あと少しで正答の子がクラスの28%もいる！



Plan



授業改善のポイントは、共同追究を発表会にしないことね。どうすればいいかしら。

Action

Do



いつもの共同追究では「できた人説明して」としてしまうけど、今度は「誰かが書いた説明を修正してみる場面」を作ってみたらどうかな。

Check



いいね。「この説明の分かりやすいところはどこ？」と声をかけて、よさを位置付けながらみんなで説明を完成させる授業は楽しそうだな。

Q 16

指導主事の学校訪問を生かすには？

ポイント

各校からの「指導主事の学校訪問要請」は、学校の課題を踏まえて目的を明確にし、課題改善の見通しをもって行われています。指導主事も「演習や模擬授業を取り入れた研修」「教科会の教材研究等への対応」「複数主事訪問」など様々な要請に幅広く応える準備をしています。

- (1) 課題解決が実質的に進む方法を工夫する。
- (2) 互いの「技」を認め合い、「技」を強化する機会にする。

(1) 課題改善が実質的に進む方法を工夫する

「指導主事の訪問はこういうものだ」と固定的に考えず、研究会の運営、指導案の形式等を、目的に沿って柔軟に工夫し、校内の研究が深まるように工夫しましょう。

- ① 「何を改善するために指導主事の要請をするのか」という目的を確認しましょう。
- ② 日程や資料、研究会の運営などの方法が目的に対応しているか検討し、適切かどうかを吟味しましょう。
- ③ 日程や資料、方法等の工夫などについて相談があるときには、指導主事に連絡してみましょう。

(2) 互いの「技」を認め合い、「技」を強化する機会にする

個々の教職員がもっている「技」は、普段の授業づくりや教材研究、子どもとのかかわり方等の中に潜んでいます。普段、何気なくしていることの大切さや可能性を、同僚や指導主事などの他者によって具体的に光が当てられると、「技」としての意味に気付いたり見方を広げ、考えを深めたりすることができます。

- ① 指導主事の支援を受ける前に校内で「模擬授業」「教具を持ち寄る教材研究」を行い、授業者等の願いや悩みを知ったり、互いの「指導観」や「技」に目を向けたりする機会を作りましょう。
- ② 当日は、授業者等の願いや悩みを踏まえ、子どもの姿を根拠に、支援の可能性について検討したり改善の方法等についてアイデアを出し合ったりできるように、授業研究会の形態などを工夫しましょう。課題に目を向けることも必要ですが、「こんなことができるのではないか」というアイデアを具体的に語り合って、今もっている「技」を強化しましょう。
- ③ 事後は、当日見出した「技」をどのように生かしているか話題にしたり通信などで広報したりしながら、互いの実践のよさに学び合うよう促しましょう。

従来のイメージにとらわれず、目的に応じて多様な方法を工夫する

5月～6月、2学期の始めなど 研究や実践の方向を見定めるために

(例)

- 全クラスの授業参観
- 授業者との懇談
- 模擬授業等
 - ・指導主事が教職員を対象に授業
 - ・授業づくりについて懇談
 - ・家庭学習や小中連携について意見交換

【先生方の声】

「学習問題と学習課題の違い」を子どもの意識に沿って考えることができ、導入場面の工夫のイメージが膨らんだ。校内で授業づくりについて話し合う機会が増えた。

6月～7月、2学期の始めなど 実践の方向や方法を共有するために

(例)

- 同じ場面の授業を複数時間参観
- 単元展開・授業展開や支援のあり方を係内指導で検討
- 係内指導報告と、次時の授業について検討
 - ・指導主事も参加者の一人として参加

【先生方の声】

同じ場面・素材でも、支援の仕方一つで反応が変わった。ねらいを明確にし、適切な支援かどうかを吟味しなくてはならないと思った。みんなで作った授業だけに関心も高く、支援のあり方について更に考え合った。



3学期など 実践を振り返り、成果と課題を 明らかにするために

(例)

- 1校時に単元展開の第1時の授業を先生方が参観
- 2～4校時に第1時を踏まえ、第2時の展開を指導主事と教科会で検討
- 5校時に第2時の授業を教職員に提案
- 研究会
 - ・教材研究や授業づくりの実際を検討

【先生方の声】

今年の研究の確かさを実感した。また、授業づくりに終わりはないとも思った。抽象的な研究でなく、教材研究が深められる研修にしたい。

年間を通して 実践上の悩みの解決のために

(例)

- 各校のニーズに応じ、半日の訪問
 - ・教科会の教材研究に参加
 - ・特別支援や人権教育などの研修会
 - ・家庭学習の充実についての研修会

【先生方の声】

日常の悩みや課題にフットワークよく対応していただきありがたい。

コラム③

II-2

【授業研究会などで心に残っている同僚や先輩のあの一言】

授業の後「先生は何の先生ですか？」という言葉をかけられることが何度かありました。

一度目は、初任校での先輩、M先生からでした。「私は数学の教員です」と答えると、M先生は「教科を教えるだけがあなたの仕事か？」と応じられ「自分が何の先生なのか、その答えを探すのが、初任者としての研修だ」と厳しく温かく諭されました。「ティーチングマシーンと教師は違うことを実践を通して学べ」と道を示してくださったのが、M先生でした。

二度目は、山間僻地の学校に赴任したときのO先生からでした。O先生の「何の先生か？」という問い合わせに「私は中学校の教員です」と答えたところ、O先生は「その中学は、この◇◇村立◆◆中学のことか」と応じられ「AさんやBさん…の先生だという意味を込めているか」と踏み込まれました。そして「この地域のために、この地域の一員として、顔と名前のある子どものための実践をしているかを常に考えよ」と軸足の置き処を示してくださいました。

公開授業の後、助言者の先生から「先生は何の先生か？」と声をかけられたこともありました。「先生の数学の授業は、道徳の授業のようだった」と、教科指導において、学習指導と学級指導は常に両輪であることを教えていただきました。自分の実践に、新たな視点や可能性を見出す契機となる言葉でした。

そして、忘れてはならないのが、子どもたちの声です。

M先生やO先生や研究者が言った趣旨を、彼らは話し言葉や書き言葉だけでなく、からだ全体で表現してくれています。「先生は、本当に私の先生か」ということをその真剣なまなざしで訴えています。

その声を心に刻む実践をして参りたいと思います。



【授業研究会を行って苦しかった場面、感動した場面】

初任の時、郡市の教科会で授業をさせていただく機会を得ました。連立方程式の利用で、濃度の違う2つの食塩水を混ぜてできる食塩水の濃度を求める問題場面です。生徒がつまずきやすいのは、食塩水は透明で、中の食塩がどのくらい含まれているか見えない点です。つまり、食塩の重さの合計が混ぜる前と後で変わらないという等しい関係を見出すことが難しいのです。そこで、ビーカーに食塩水をつくり、時間の経過とともに食塩がビーカーの底にたまってくる様子をビデオで撮り、早回しをすることで、実際の食塩がビーカーのどのくらいの割合で含まれているか、視覚化するアイデアを思い付きました。とても時間がかかる作業で大変でしたが、なんとかビデオに撮ることができ、授業で提示することができました。



同じ教科会の教科主任のI先生から、「よくアイデアが浮かんだな。これは分かり易い」とほめられました。未熟なアイデアでしたが、ほめていただいたことは、とても励みになりました。

その時の授業も時間内に終わり、自分としてはうまくいったと思っていました。しかし、教科主任のI先生は、「これからが勝負だ。授業研究会ではいろいろな意見が出るから、それに対してきちんと主旨を言わなければいけない」とおっしゃいました。その時、一種の緊張感が体に走りました。授業研究会で郡市の先生方から、様々な意見が出されました。質問に対して、うまく説明できない場面もありました。その時、I先生はすかさず教科の立場をきちんと説明してくれました。初任の私を温かく見守ってくださったI先生のことは、20年以上たった今でも忘れません。